

当面の技術対策（農産編）

平成23年8月1日

発行：ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町志類地区

気温や湿度が高めで経過していることから、病害虫の多発が懸念されます。ほ場確認をよく行い、適期防除に努めて下さい(使用薬剤は各地域の農薬使用基準等を参考にして下さい)。

1 秋まき小麦

- (1) ほ場間で成熟の進み具合に大きな差が見られます。ほ場確認を十分に行い、適期収穫に努めましょう。また、同一ほ場内でも成熟の進み具合に大きな差が見られる場合があるので、部分刈り等の対応により品質向上に努めて下さい。
- (2) 高水分で収穫する場合、圧ぺん粒、青未熟粒の発生がないことを確認するとともに、異臭麦とならないよう長期堆積(3時間以上)せず、すみやかに乾燥しましょう。
- (3) 収穫跡地は、麦稈搬出の有無にかかわらずチョッパ等により、麦稈を細断して分解を促進します。

- (4) 収穫跡地には地力対策や雑草対策に必ず緑肥をは種します。緑肥はできるだけ「えん麦野生種」を選択するとともに、生産量確保のため、早めには種しましょう。

表 秋まき小麦跡作緑肥栽培例

緑肥名	は種量 (kg/10a)	施肥量 (kg/10a)		
		N	P ₂ O ₅	K ₂ O
えん麦	15～20	5	5	0～5
えん麦野生種	10～15	4～6	5～10	0～5

2 てんさい

- (1) 褐斑病は高温多湿で多発するので、予防的防除に努めましょう。
- (2) 気温が高くなると葉腐病の発生が懸念されます。ほ場をよく確認し、発生が見られたら速やかに防除して下さい(特に根腐病の発生または発生しやすいほ場は注意)。
- (3) 雑草の抜き取り作業は、種子が落ちる前に実施しましょう。
- (4) 昨年多発生した『シロオビノメイガ』は、食害程度が大きいことから、初発を確認したら(食害痕や1.5cm程度の蛾が飛び始める)速やかに防除を実施しましょう。防除薬剤は効果が確認されているIGR剤(マッチ乳剤、カスケード乳剤等)を使用してください。

3 馬鈴しょ

- (1) 疫病、軟腐病が発生しやすい状態にありますので、散布水量を多く(120リットル程度/10a)して防除してください。
- (2) 試し掘りは早めに実施し、収量とともに内部品質(でんぷん価、中心空洞の有無等)を確認し、適期収穫に努めて下さい。
- (3) リーフチョッパーで茎葉処理を行う場合、刈り損じが多いと再生葉が多くなり、中心空洞や塊茎腐敗等の発生要因となります。機械の調整を十分に行うとともに、刈り損じ株には、再処理又は手刈り等の対応をします。

4 豆類

- (1) 気温が高いことから、生育旺盛なほ場が多くなっています。湿度も高いことから菌核病・灰色かび病の発生に特に注意して下さい。
- (2) 菌核病・灰色かび病の防除は、1回目の防除時期の目安は開花始後、菜豆5～7日目、小豆7～10日目、大豆10～15日目です。2回目以降の防除は、7～10日間隔で合計3回程度実施してください。(同じ系統の薬剤を連用しない)
- (3) 近年、莢や子実を食害するアズキノメイガ等の蝶蛾類幼虫やゾウムシ類の被害が多くなっています。莢が付き始める7月下旬～8月中旬頃に産卵盛期となる場合が多いので、産卵盛期に必ず防除を実施しましょう。

農薬の適正使用・生産履歴の記入を忘れずに！
農作業安全・無理な作業を控えて適度な休憩、休息を！

幕別町からのお知らせ

～ エキノコックスの感染に注意しましょう！ ～

今年は、例年に比べてキツネの捕獲数が増えています。キツネはエキノコックスの感染源となることから、特に注意が必要です。

1 エキノコックス症とは

エキノコックス症とは、エキノコックスという寄生虫によって引き起こされる感染症で、キタキツネやイヌ、ネコ等の糞に混じったエキノコックスの卵を水や食物などからヒトが経口摂取する事によって起こる人獣共通の感染症です。卵は人の体内で幼虫になり、肝臓に寄生します。そして肝臓内で増殖し、致命的な肝機能障害を引き起こしますが、自覚症状の出現には成人で10年、小児で5年以上かかるといわれ、自覚症状が現れる頃には致命的な症状となっていることが多く見られます。

2 感染予防対策

感染は経口摂取によってしか感染せず、人から人への感染はありません。このことから、感染予防対策として次のことを心がけてください。

- (1) キツネに触らない。
- (2) キツネを人家に近寄らせない。
- (3) 手洗いを徹底する。
- (4) 山菜などを口にする場合は、良く洗うか十分熱を加える。

エキノコックスの卵は熱に弱いことから、煮沸すれば卵を殺すことができます。

3 感染源(キツネ)対策

感染源であるキツネへの対策として駆虫薬散布があります。駆虫薬散布とは、駆虫薬(虫下し)を混ぜた餌を散布し、それをキツネが摂取することで寄生しているエキノコックスが駆虫されるというものです。

ただし、散布をやめると感染率が元に戻ってしまうことから、定期的、継続的な散布が必要、道路わきに散布する場合は散歩中の飼い犬や子ども、畜産農場等で散布する場合は飼養家畜が、誤って摂食することのないよう注意が必要、などに留意する必要があります。

なお駆虫薬散布に関する詳細につきましては、北海道保健福祉部が発行している「キツネの駆虫に関するガイドライン - エキノコックス症対策 - 」に記載されていますので、問い合わせ等につきましては直接下記までお願いします。

[問い合わせ先] 北海道保健福祉部保健医療局食品衛生課
〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目
: 011-204-5262

4 町民への対応について

幕別町では、8歳(小学3年生)以上の方を対象に、エキノコックス症検査(血液検査)を実施しています(自己負担あり)。詳細は町保健課健康推進係(: 0155-54-3811)までお問い合わせください。

なお、小学3年生、中学2年生は「北海道エキノコックス症対策実施要領」に基づき無料で実施(学校を通じて通知)しています。